



大泉

「自律」

「協働」

「創造」

令和7年10月 7日
発行者 大槻 亨
編集 本田 敏行

第6号

最高の目標に向かって、今、小さな努力を積み重ねよう

校長 大槻 亨

いよいよ合唱コンクールが近づいてきました。校舎中に響き渡る練習の歌声に、毎日、胸の高鳴りを感じています。この行事は、単に歌の優劣を競うものではありません。一つの合唱曲を創り上げるといふ共通の大きな目標に向かって、学年やクラスの仲間との協力と絆を深める、本校にとって最も大切な教育活動の一つです。

仲間を信じ、励まし合い、時には意見がぶつかり合いながらも、心を一つにして歌い上げた合唱は、かけがえのない最高の思い出となります。ぜひ、練習のプロセスも含めて、全員で力を合わせ、最高のステージを作り上げてほしいと願っています。

7月末に、野球界の偉大なレジェンドであるイチローさんがアメリカ野球殿堂入りの表彰式典で披露されたスピーチに、深い感銘を受けました。その言葉の中には、生徒たちが今、まさに取り組んでいる合唱コンクールにも通じる、最高の合唱を創り上げるための重要なヒントが詰まっているように感じます。そのスピーチの一部を紹介します。

「小さなことを積み重ねれば可能性は無限です。…自分の準備への信念を貫けば、周りからの疑念や、自分の不安さえも乗り越えられるとわかっていました。」

「チームのためにあなたができる最も大切なことは何かと聞かれたら、私はこう答えます。自分自身に責任をもつことだと。」

「子どもの頃の私の夢は、プロ野球選手になることでした。小学6年生のとき、その夢を作文に書きました。もし今、それを書き直すことができるなら、『夢』ではなく『目標』という言葉を使うでしょう。『夢』は必ずしも現実的ではありません。しかし、『目標』は深く考え抜けば現実にすることができず。」

「小さなことを積み重ねれば可能性は無限」「夢を見るのは楽しいが、目標は難しく、挑戦を伴う」この深みのある言葉の数々は、私たちに大きな学びを与えてくれます。特に、合唱コンクールという挑戦に立ち向かう今、イチローさんの言葉から学ぶべき点を三つあげたいと思います。

1. 「小さなことの積み重ね」が、最高のハーモニーを生む

イチローさんは、用具の手入れや日々の練習といった一見地味な「小さなこと」を毎日続けることが、最高のパフォーマンスに繋がると信じていました。合唱においても同じです。

例えば、音程を合わせる努力や強弱記号やブレス（息継ぎ）の位置を意識することなど、小さなことかもしれません。しかし、全員が毎日、その「小さなこと」を徹底して積み重ねることで、クラス全体の

【先生方も練習の成果を披露】



空気は引き締まり、歌声に深みと統一感が生まれます。日々の小さな努力こそが、本番で聴衆の心を震わせる無限の可能性を秘めた力となるのです。

2. 「自分自身に責任をもつ」ことが、チームを支える

「チームのためにできる最も大切なこと」としてイチローさんは「自分自身に責任をもつこと」を挙げました。合唱コンクールで歌声が揃わない時、つい「誰かの声が大きい」「あのパートがしっかり歌っていない」と周りのせいにしたくなるかもしれません。

しかし、「なぜ、自分の声が周りの声と調和しなかったのか」「自分は今、最高の音程で歌えているか」と、まずは自分自身に問いかけることが重要です。自分のパートの音程やリズム、表現の責任を一人ひとりがもつことで、誰かに言われるのではなく、自律的に練習に取り組む姿勢が生まれ、クラスメートの頑張りを心から応援し、助け合える強固なチームへと変わっていきます。自分に責任をもつ自律した姿勢こそが、最高のチームワークを生み出す土台となります。

3. 「夢」を「目標」に変えることで、現実を動かす

イチローさんは「夢」を「目標」に変えることの重要性を説きました。「金賞を取りたい」「会場を感動させたい」という漠然とした「夢」を、実現可能な具体的な「目標」へと落とし込んでください。

「金賞」という夢を達成するための目標とは何か。例えば、「今週中に、弱点の三部合唱の音程を完璧にする」など、具体的な取組の目標が必要です。「夢」は楽しいですが、「目標」は難しく、挑戦を伴います。しかし、その具体的な目標を達成するために、毎日の練習や準備を真剣に考え、継続することこそが、実現への確かな礎を築きます。

合唱コンクールのクラスの合唱は、一瞬で終わってしまうかもしれません。しかし、そのプロセスで流す汗、ぶつかり合った言葉、そして共に歌い上げた歌声は、人生の宝物となるでしょう。

さあ、皆さんの「最高の合唱」という大きな「夢」を、「日々の小さな努力」という具体的な「目標」へと変え、クラス全員で力を合わせてください。当日は、皆さんの心が一つになった、魂を込めた最高の歌声がホールに響き渡ることを心から楽しみにしています。



オクラ日記 NO. 1

今回の学校だよりから、校長先生からご許可をいただき副校長本田からも記事を書かせていただくようになりました。是非ともご一読をお願いいたします。

さて、この「オクラ日記」というネーミングですが、私が特別支援学級で主任をしていた時に生徒全員で落ち葉を拾い集め、腐葉土を作りオクラの種を蒔いて育てたことから『一から始める大変さと、オクラを収穫してみんなで食べたときの笑顔が忘れられない。』この瞬間は、時が経過しても色褪せないまま脳裏に刻まれています。大泉中学校に4月に赴任してきました。多くの生徒たちの活躍の場が毎日随所で見受けられます。その生徒たちの活躍している瞬間と一緒に感じたいと強く思っています。これからたくさんの生徒の笑顔伝えていくように発出していきますのでよろしくお願いいたします。

皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております！次回はラグビーボールでのお話です。